

第12回 積雪寒冷地における道路舗装の長寿命化と

予防保全に関する検討委員会

議事概要

■ 第12回検討会：令和8年3月17日（火）

【議 題】

- ・耐久性の高い舗装を設計・施工する技術について
- ・効率的な点検・診断技術について

【議事概要】

- 事務局より今年度を実施している現場実証技術の状況と今後の予定、過年度現場実証技術の追跡調査結果報告と第2回技術募集結果、舗装点検でのAI活用の試行状況について報告し、質疑応答を行った。
議事内容は以下の通りである。

◇耐久性の高い舗装を設計・施工する技術について

- 試験施工で導入された各技術について、寒冷地特有の道路損傷に対してどの性能が優れているのかを明示し、関係者間で共有・定着させることが重要である。
- 調査結果をとりまとめる際に（目的に応じて）各者統一的な項目でとりまとめを行うこと。
- 北海道の気候条件や用途に応じて最適な材料を選定できるよう、各技術の適用範囲や経済性を整理し、使い分けを分類していく必要がある。
- ポットホールは北海道において毎年大きな課題となっており、社会的関心も高い状況であることから、現場実証を進めるとともにその取組を社会に発信していくことが重要である。

◇効率的な点検・診断技術について

- 令和8年度も北海道ではAI舗装点検でのAI活用の試行を継続する。
- AIによる舗装の健全性診断「HibiMiru」（ヒビミル）は、市町村での導入も拡大しており、北海道発の点検技術として今後の普及が期待される。

以上